

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

第0109号

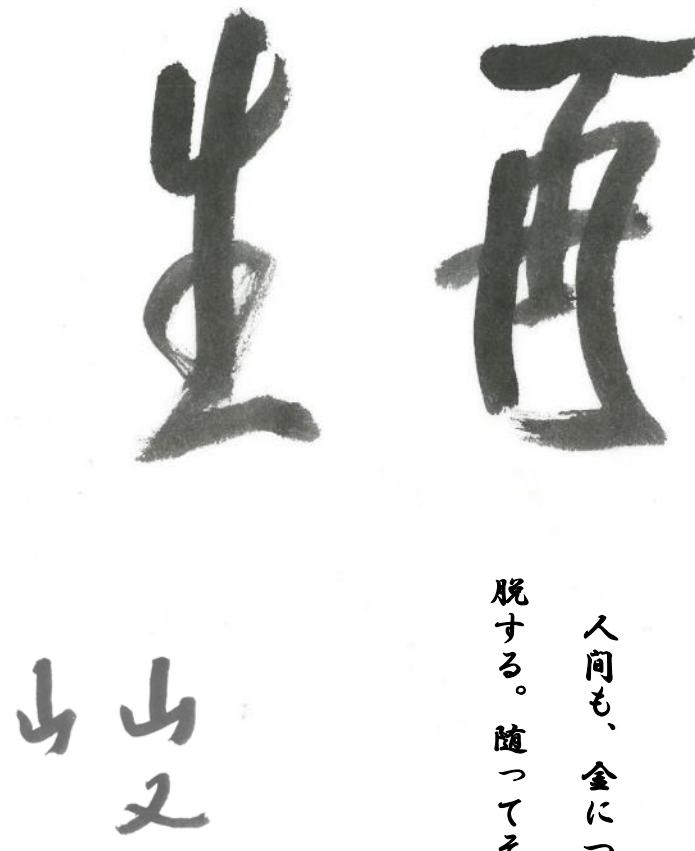
2025.9月号

令和七年

NPO法人福岡実践人

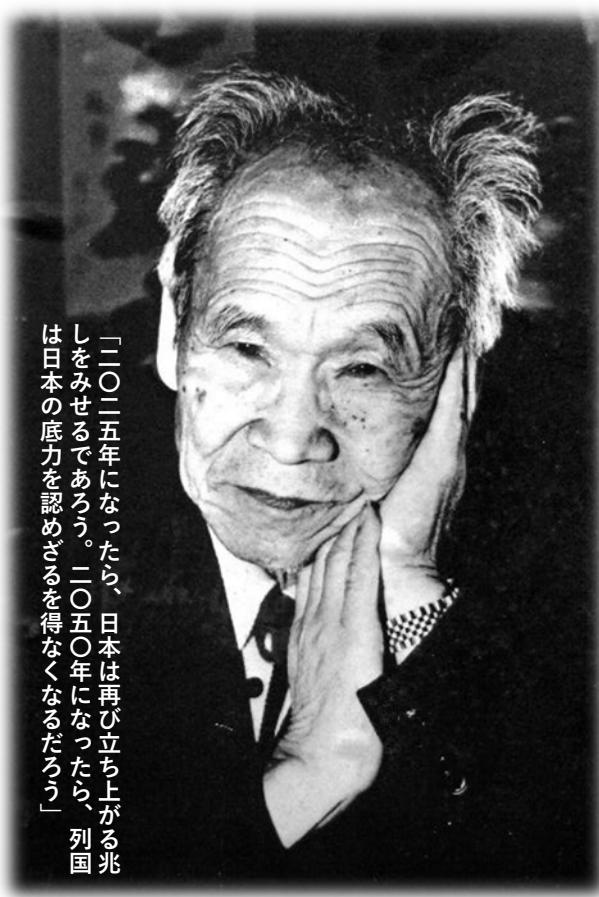
人間も、金についての親の苦労が分かりかけて、始めて稚氣を脱する。随つてそれまでは結局、幼稚園の延長に過ぎぬものといえる。

森信三先生一語千鈞より



「二〇二五年になつたら、日本は再び立ち上がるしきみせるであろう。二〇五〇になつたら、列国兆は日本の底力を認めざるを得なくなるだろう」

再生の題字（森廸彦様提供）は、森信三先生の直筆です。



# 父 親 人 間 學 入 門

森 信三先生 講述

実践人福岡仁風讀書会 第一〇九回 八月三〇日  
場所：仁風庵

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

## 十九 生死と心願

—父として・人間として—

### 満天の星座

前章の終りの辺で申したように、わたくしは七十歳にして初めて「世の中には両方良いことはない」という真理が心から領けるようになり、この真理がいわば体で了解納得できるようになったわけですが、では次いで八十歳にして開眼したことは何かと申しますと、それは「この広い世

の中には色いろと卓れた人が、まるで満天の星座のように無数にいられる」という無限の感慨であります。自分でいうのはなんですが、人様の長所利点を認めるにかけては、わたくしも人後に落ちないつもりであります。と申しますのも、人間というものは、花やかな舞台の上で演じていますと、観客の様子は意外なほど見えないものですが、平土間に腰かけていますと、舞台上の人の様子は実によく見えるものです。こうしてわたくしは一生をいわば平土間にいましたので、自分以外の人や物については、花やかな舞台上の人よりは多少は承知していたつもりでしたが、それが八十歳という年になつてみると、この広い世の中には如何にすぐれた人が多くいられるかという感慨がいよいよ深くなつたわけであります。

七十歳の時にわたくしの「全集」二十五巻が完成いたしました時に、わたくしはその祝賀記念の催しを固辞して、その代わりに「契縁録」とうむのをお願いしたのでしたが、その「契縁録」と申すのは、これまでわたくしとご縁のあつた方々に、その方々の「ミニ小伝」を集録して頂いたものであります。ところが六〇〇人を超える方々の一人ごとにについて読まして頂きましても、少なくとも何処か一点は、わたくしの到底及びがたい長所美点を必ず持つていらりますのに、ホトホト敬服せざるを得なかつたわけであります。

このように、齡八十歳に達してわたくしも多少は人様やものを観る眼を開けてきたということは、結局は棺桶が近づいて来たせいかも知れません。「認識」とか「洞察」というものは、何ごとによらず人生の根本と思われ

てなりません。これは人間認識や時代認識に限らず、自分の将来に対する見通し的な認識も、たいへんに大事な智慧の一つといえましょう。とりわけ人生最後の終着点（死）に対する見通しこそ、人生における最大最深の透察と申してよいのではないでしようか。

### 認識の徹底

思えば「始あれば終りあり」「生あれば必ず死あり」でありますて、このわたくしどもの人生には必ず末期（死）というものがつきもので。これこそ賢愚・貧富・美醜を問わず、いつの日か必ず最後におとづれる死の絶壁であり、永遠の深淵であります。ひとたびこの一瞬に到りますれば、如何なる人といえども、一言をも発せず、一語を書き記すことも出来ないわけであります。

思えば人間の最終点たる「死」こそは、万人共通の絶対的事実と申してよいのに、われわれ人間は、ともすればそれを忘れてついウカウカと日々を過ごしているのが、われわれ人間の実相であります。

わたくしはいつも譬えをもつて申すのですが、死の絶壁にボールを投げて、そのはねかかる弾力を根源的エネルギーとして、われわれは生き抜かねばならぬであります。これを一語につづめて申しますと「念々死を覚悟してはじめて真の『生』となる」ということであつて、これがわたくしの宗教観の根本信条なのであります。こんなことを申しますと、人様は奇異の感を以つて受け取られるでしようが、眞の宗教的な世界も結局はこの根本信条より発する無碍光に照らされた人生の如実に実相と申してよいでしよう。

そしてこれこそが眞の宗教信なのであります。ですからこのような認識の徹底なくしては、眞の宗教的な生き方はあり得ないわけであります。言いかえますと、わたくしどもはある使命を帶びて神からこの世へ派遣せられたともいえましょう。

神というコトバを使わぬとしたら、天といつても大宇宙からといつてもよいでしようが、とにかくわれわれは、この大宇宙の極微な被造物であり、随つてこの大宇宙生命からこの世に派遣せられたものとも申せましょ。もしそうだとしたら、如何なる使命がこの自分に課せられた使命であるかを、なるべく早く突きとめねばならぬわけであります。しかしそれがある程度分かり出すのは、どうもこの人生のほぼ二等分線を越えて、四十才を中心とする小十年の間であつて、四十二・三才ころから遅くとも四十五才までには、かなりハッキリとその見当をつけねばなるまいと思います。

## 宇宙根源生命

ところで先ほど神というコトバを使いかけて、途中で言い直しましたが、それは安易に軽々しく神というコトバを使いたくないからであります。また現代の若い人たちが、それを避ける気持ちも判らぬわけでもありません。では人あつてもし「あなたはいつたい神を信じておられますか」と問われれば、わたくしはハッキリと「神の存在を信じます」とお答えするでしよう。ただわたくしの神とは、宇宙の根源生命とか、唯一生命の無限絶大な統一力とか申すものであります。かかる意味においてわたくしは厳然たる神の働きを信じるものであります。しかしこれは何もこうした表現に限つたことではなくて、大御親とか天帝とか天の中主神とかいうように、人格神的いろいろな表現があつて然るべきであります。要はそれぞれの人が、その人の内的心情にぴったりするコトバをもつて表現すれば良いのではあるまいかと思います。

なかには神についてそれぞれの見解をもつ必要はないのではないかと思われるでしようが、人間はそれぞれの人の器に応じて、神の問題を眞に徹して生きることは至難の事柄だからであります。すなわち神の問題は、自分の生き方と密着しているわけですから、わたくしは無神論を

云々する人々にはどうしても組し得ないのであります。すなわち自己を統一し、真剣に生きようとする以上、そこには必ずや神の問題が課題となる筈だからであります。ですからわたくしとしては、神の存在を安易に否定する人より、生涯かけて神の有・無について探求し究明する人に對して、眞の尊敬の念を抱くのであります。

そこでわたくしが一代かけて究明しつづけてきた考え方を申しますと、神とはこの大宇宙をあらしめ、かつこれを永遠無窮に統一している絶大な力であると共に、他面それは、このわたくし自身の全存在を支えている絶大な生命であり、いわば「生命の生命」ともいうべき絶大無限の「大生命」なのであります。このような言い方をしますと、何らかの既成宗教を信じていられる人にとっては、おそらくは物足りない感じがするだろうと思います。しかし、いずれの既成宗教でもその宗教特有の外皮をとつて、虚心にその内面に湛えられている絶大ないのちに眼をむければ納得頂けることと思います。

## 心願に生きる

ところでわれわれは、「絶対の生命」というか「大生命の光」を感じし、少しでもそれに触れることが出来た以上は、何らかの面で、世のため人のため、いささかなりともお役に立つことをしたいということを、心ひそかに願わずにはおられなくなるはずであります。これが眞の意味における「心願」であります。申すまでもなく、この心願には祈りと共に「行」がともなうもので、持続的な行が伴わなくては眞の心願とはいえないでしよう。しかしここに「行」とはいっても、既成宗教の枠にはまつた行を意味するものでなく、それぞれの立場や力量に応じた一種の下坐行ともいるべきものであります。たとえばわたくしの道友で、かつて担任した教え子にずっと毎月「ハガキ通信」を送りつづけている小学校の先生がいられます、たとえ教え子からの返信がなくても、これを何年も持続しつづけている真情を察するに、胸のあつくなるのを覚えずせましょ。

# 鍵山秀三郎 掃除が起こした「奇跡の力」

連載32回

著者:鍵山秀三郎 2008.12

## 第一章 掃除が奇跡を起す

流されず、工夫を続ける

人間は、何かをやり続ければ慣れてきてしまつて、惰性に走ります。 「「」んなもんでいいだらう」「とりあえずやっていればいいだらう」とながされてしまふ人は大勢います。

掃除をする姿を見ていてもわかります。大勢の人たちがいつせいに掃除をする様子を見ることがあります、「ああ、この人は一心に掃除を打ち込んでいるな」という人と、「とりあえず、格好だけは掃除をしているけれど心は入っていないな」という人がいます。ほうきの持ち方、使い方、ちりとりの動かし方などひとつひとつに、その人の取り組み方が見事にあらわれます。

中国の思想家・孔子の若き日の逸話として、琴の名手に師事したときの話があります。これぞ自分の目にかなう弟子、と師が孔子に目をかけて育て、弾かせてみるとすばらしい音色。しかし孔子は、「樂譜通りに弾けるようになつたが、この曲を作った人の気持ちになるまで練習をさせてほしい」と頼みます。十日後に弾かせるとまたも見事な音色となれど、「真つ黒な雲の陰にかすかな光を感じただけ」と言います。さらに十日後に弾かせたときに、孔子は、「先生、私はやつと曲を作った人の気持ちになつて弾くことができました」と言つたそうです。これを聞いた師は座を降りて孔子に頭を下げ、「今日からあなたが先生だ」と告げたというお話しです。孔子は、本当にそのものの気持ちになるといふことを実践したのでしょうか。

「今日からあなたが先生だ」と告げたというお話を聞いた師は座を降りて孔子に頭を下げ、「今日からあなたが先生だ」と告げたというお話しです。孔子は、本当にそのものの気持ちになるといふことを実践したのでしょうか。

う」とを実践したのでしよう。

私も掃除を続けてきて、今ではほうきを手にすれば、瞬間にそのほうきにぴったりの持ち方や動かす角度などがわかります。それはまるでわずかな風向きで帆を動かす帆船のようなもので、ちよととした動かし方で、ゴミの取れ方も変わってきます。

私にとって、手にした同時道具は自分の身体と一体化するのもあり、変な角度で地面にあてれば痛みを感じますし、うまく動くことができません。自分の手足を使って掃除を続けてきたからこそ、道具の心にもなる」とができるのです。

完全をめざしながら過程を大事にする

私は「今まで掃除を徹底的に続けてきましたが、「これで完全だ」と満足した」とはありません。やればやるほど、まだまだ上があると感じますし、「あれをやつてみよう」「次はこうしてみたい」と常に挑戦すべき課題が目の前に現れます。もちろん、掃除なんて簡単なことだと考えている人にとつて、私の掃除法は面倒でレベルの高いものだと感じるかもしれません。私にとっては、「まだまだ自分は未熟だ」と思うこともしばしばです。

人が「完全」を求めようとすると、そこには大きな危険があります。それは「完全」という結果だけを求めて、その家庭をとぼしてしまつことがあります。たとえば、北アルプスの槍ヶ岳に登るとき、長野県側の上高地から登るルートは比較的楽で、これまで一度登つたことがあります。しかし、北鎌尾根から登るルートは非常に険しく、技術も体力も必要ですが、登山を極めたい人はそちらから登攀します。

「槍ヶ岳に登つた」という結果だけを求めるなら、リコピターで頂上に行つてしまえばいいわけですが、それでは登つたことにならないのは誰でもわかることです。

完全を求める」とは大切ですが、努力なしに結果を手にしようとする」とは意味がありません。たいへんな道程をコツコツと歩む、そのことに、その意味があるのです。

日本一きれいな博多駅・福岡の街に!

第 381 回

第 381 回 博多駅 早朝 清掃

毎月**8**日 午前6時15分~

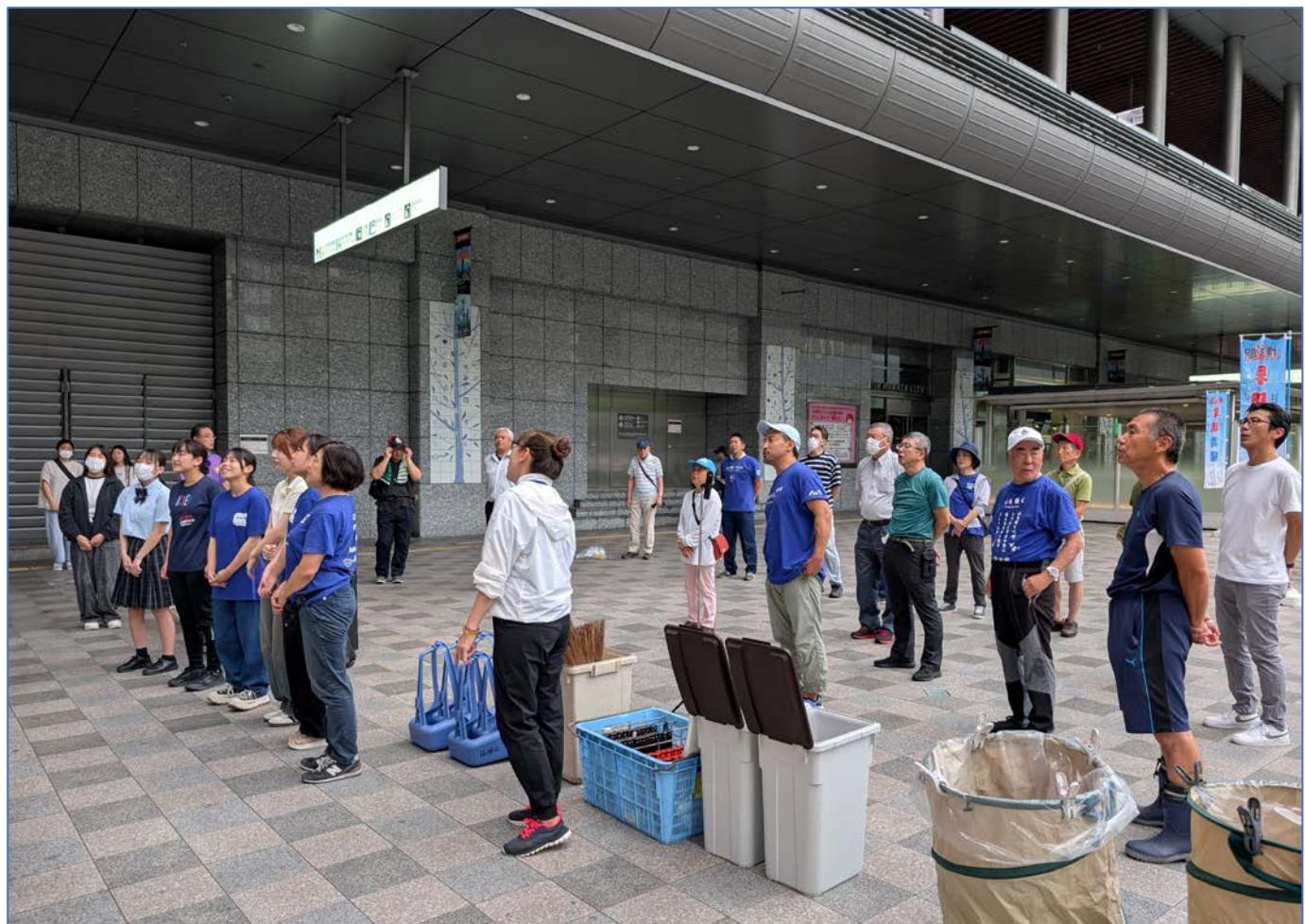
〔第一回〕 平成5年12月8日開催

福岡実践人・JR九州博多駅  
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会



# 第381回 博多駅早朝清掃 32年目

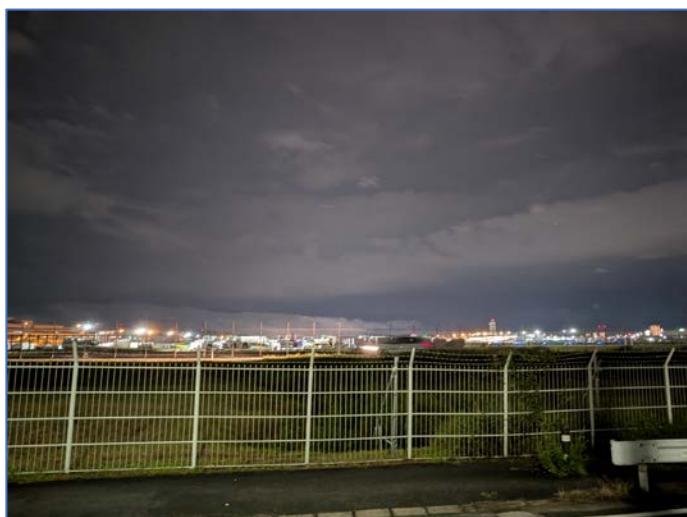
## 8月8日(金曜日) 46名参加



博多駅早朝清掃 381回、夏休みに入り博多駅は新幹線で乗り降りする人たちであふれています。人なみと比例して博多駅周辺にはゴミが多くなってきています。「ゴミはその街の文化の象徴ですからね！」という森信三先生の咳きで始まった博多駅早朝清掃、今日も最幸のスタートです。



2025.8. 11 於:福岡空港ミリオン清掃 第87回



2025.8.17 於：戒壇院作務に学ぶ会



2025.8.17 於：太宰府觀世音寺トイレ掃除 初回



～古き良き時代の日本再生～

# とくよみ

Instagram



@RAKUNOUJIN1962

= = = 心を耕し、生を拓く = = =

くにひ



鹿児島市内から家族四人で海岸清掃のために来島してくれました。

令和7年(2025) 9月号 NO.031

# とんぼろ掃除に学ぶ会／薩摩川内市 in長目の浜

## 第31回 長目の浜海岸清掃 《楽農人／とんぼろ海掃隊》



後援





# 樂農人放浪記 048

鹿児島県薩摩川内市里町（甑島）

25.8.3





9月								10月						11月				
日	8	13	19	20	21	21	8	11 ~ 12	18	19	19	8	8 ~ 9	16	16			
曜	月	土	金	土	日	日	月	土	日	日	日	土	博多駅早朝清掃 第384回	第45回 福岡実践人研修会	太宰府觀世音寺 トイレ掃除 第4回	太宰府觀世音寺 第29回		
行事活動名	長目の浜海岸清掃 第32回	博多駅早朝清掃 第382回	関東ブロック大会	大正村掃除に学ぶ会 第32回年次大会	掃除実習	太宰府觀世音寺 トイレ掃除 第2回	戒壇院早朝作務 第27回	長目の浜海岸清掃 第33回	博多駅早朝清掃 第383回	山形に学ぶ会 令和7年度年次大会	奈良掃除に学ぶ会 年次大会	奈良県	戒壇院早朝作務 第28回	太宰府觀世音寺 トイレ掃除 第34回	長目の浜海岸清掃 第34回	博多駅早朝作務 第28回	クリオコート博多	太宰府觀世音寺内市 戒壇院境内
場所	鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	千葉県茂原市	岐阜県恵那市	同左 明智中学校	太宰府市觀世音寺内	太宰府市戒壇院境内	鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	出羽三山	奈良県	太宰府市戒壇院境内	鹿児島県薩摩川内市	太宰府市觀世音寺内	博多駅博多口	クリオコート博多	太宰府市戒壇院境内	
開始時刻	6時30分	6時15分		16時00分	7時45分	5時30分	6時30分	6時30分	6時15分			5時30分	6時30分	6時30分	6時15分	5時30分	6時30分	
運営団体▼	楽農人とんぼろ海掃隊	福岡掃除に学ぶ会	関東ブロック	大正村掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	大正村掃除に学ぶ会	奈良掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	

上記行事予定表は、富吉の参加予定の行事を掲載させていただいている。その他、活動しているお掃除実践もございますので、事務局にお問い合わせください。



発行人(編集人)富吉 製裟右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡掃除に学ぶ会

Lineグループ運営:福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 とんぼろ掃除に学ぶ会

〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 《仁風庵》

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)

こしき仁風庵:鹿児島県薩摩川内市里町里90番地



@F\_JISSENJIN

「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。